

悪霊から私を守ってくれた守護天使——その体験記

Greatchain

March 31, 2024

ユーチューブを利用される方々をご存知のように、この情報装置は1つのテーマに集中すると、どこまでもその関連記事が、広く深く掲載されるようになっていく。私はこれを利用しないが、このブログでの我々のテーマが、一貫して、世界的宇宙的な神と悪魔、あるいは善と悪（悪霊）との対決なので、私がこれにアクセスすると、それに呼応して、英語による Guardian Angel（守護天使）たちの賛同意見あるいは忠告が、次々と現れるのだと思う。それはいつも「あなた」と呼びかけるので、誰に対して呼びかけているのかわからず、実を言えば、警告か意見か、悪魔の誘いかさえの、区別もできないのである。

しかし今、この世の中が乱れ切って、善悪のけじめもつかず、世界そのものが存亡の危機にあるので、神あるいか神の使いがユーチューブで語りかけてくる、ということは十分に考えられる。かつてデイヴィッド・ウィルコックが、「自分の考えていることが、誰かに聞かれていると思えることがある」と言ったことがある。私もそれに近い不思議な体験をすることがある。守護天使が「あなた」と言って呼びかけてくるのが、（誰も名前やペンネームを使わない以上）誰とも判別できないが、どう考えても私への呼びかけとしか考えられないことがある。恐ろしく聞きにくい棒読みの英語もあり、上手で聞きやすいが、一般的な信仰の勧めと判断できる場合もある。しかし、どうしても私を知り尽くした人でなければあり得ない、忠告や激励をしてくれ、私のやっていることに賛同してくれる守護天使がいる。この人は長時間かけて、私の身がどんなに危険でも、神は守ってくれると言ってくれている。どうしてこういうことが起こるのだろうか、今だに謎である。

しかしこのような例は多くはない。最も多いのは霊界の雑情報ともいべきもので、それは情報なのか警告なのか脅しなのかもわからない。たとえばたった今、「非常に恐ろしい事件が、きょう深夜3時ころ、あなたの家で起ころうとしている」という情報が入っている。そうだとすると私は今夜、ひょっとして死ぬかもしれないが、まあ死なないだろう。同じような警告が昨日も、おとといもあったからである。しかしまた別の通知で、「誰かがあなたに罠を仕掛けた。私はあなたの部屋にいて聞き耳を立てている」と言ってくれる人（霊界の人であろう）もいる。しかしもっと具体的な例としては：——「もしあなたが最近、不安になったり、あなたの平生のエネルギーとは合わない、何かに侵入される感じがするのであれば、それはある人があなたのことを深く悲しんでおり、気が重くなっているから

だ。(しかし)別の男性で、この人物とは完全に正反対の人がおり、彼はあなたのために、(彼自身の?)安全を提供しようとしている」などと言っているものがある。

これは私のことかもしれない、全く別の人のことかもしれない。私は幸い、今のところは、自分について不吉な予感はない。この他に、意味も意図ものわからない、謎のような情報もある。たとえば、「今死んだばかりの女性が、あなたに伝言をしていった」とか、「複数のあの世の女性が、あなたについて争っている」とか…。これも「あなた」が誰かわからないが、もし私だとすると、私はどうも霊界の女性にモテるらしい。まあこれは、霊界から祈ってくれる人がいるのだとしたら、不謹慎な話だが…。「この人はかなり高齢なのに、顔は年齢よりかなり若く見える」というのも、何度か出てくる雑情報だが、これは私のことに違いない。

ここで本題に入ろう。私は1週間ほど前、明かに私に当てられた守護天使からの深刻な警告を受け取った。それは今までにない調子で書かれていた。(残念ながら動転したためにテキストはない。)そこには、このユーチューブで初めて見る witchcraft (魔術、妖術)という言葉が使われていた。そして魔術を使う者が、あなたの家に侵入しようとしているから注意せよ、と書かれていた。そして、こういうものを馬鹿にする者たちがいるが、決して軽く見てはならないと何度も忠告していた。そしてウィッチクラフトについて説明があり、この悪の力はいつでも使えるものでなく、月の相とか日にちとか、いろいろの条件によって制約を受けていることまで説明していた。中でも印象に残ったことは、witchcraft と sorcery の他に、同じ妖術を意味する言葉が、5～6語並べて書かれていたことである(私は覚えていない。)

実はその少し前に、私と妻は就寝中に、害はないが、ある不気味な現象に遭遇している。

その少し後、3月26日、火曜日に「あなたの daughter に危険が迫っている、気を付けよ」という警告(か脅迫)が入った。私の娘は別家族だがいつも出入りしていて、問題は起こりそうになかった。だがこの日は、私が老人向けのリハビリに行く日で、車に乗せてもらってその場所に行くまで、ずっと我々の車の前を666ナンバーの車が走っていた。私は嫌な気持ちになったが、気にしないようにしていた。その日、私の息子の高1の娘が、初めて電車に乗って私宅へ来ることになっていた。それはほぼ一本道であるにも関わらず、どうしても行き着けないという電話がかかってきた。最後には何とかたどり着いたが、これは私の不安を掻き立てた。孫娘が帰ったあと、ユーチューブを見ると、再び、今度は前より多くの同じ警告のテキスト、「あなたの娘に危険が迫っている」が入っていた。そこで私は気が付いた――「娘というが、これは孫娘のことではないのか？」

私はここで、自分の生涯で最大の恐怖を体験した。血圧と動悸が最高値になっているのが、自分でわかった。これはかなり長く続いた。なぜなら息子の家の電話には、何時間経っても誰も出なかったからである。不安と苦しみの耐えられない時間の後、やっと電話が通じ、孫娘に何事もなかったことがわかった。

これを、何でもない偶然の事故が重なっただけだ、という人があるかもしれない。しかし私はそれを否定する。私は、私の守護天使が何重にも私を守ってくれたために、こうなったと思っている。私は一生涯、感謝して生きていくことにする。もし私がそれを忘れて、自分の徳の力によって悪霊を撃退したかのように思いなすならば、今夜のうちにでも懲罰を受けて当然であろう。